



朝十小だより

朝霞市立朝霞第十小学校

令和4年 10月号

〒351-0023

朝霞市大字溝沼828-1

TEL 048-469-5443

在籍児童数 727名

学校教育目標 意欲ある子・考える子・健やかな子

～ 豊かな学びで楽しさと笑顔あふれる朝霞十小 ～

開校記念日

校長 岩崎 英雄

「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますが、9月の中旬から秋を感じさせる日が増えてまいりました。2学期が始まって1ヶ月、この間にも保護者や地域の皆様には大変お世話になりました。例年ですと、この10月号は運動会の話題で盛りだくさんなのですが、今年の運動会は10月8日（土）の開催となります。練習も本格的になってきましたので、楽しみにしていただければと思います。



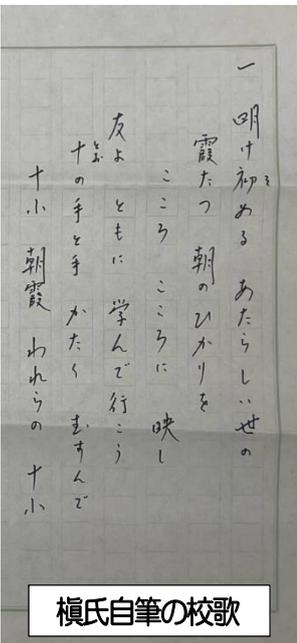
開校時の正門から見た校舎

さて、10月10日は本校の開校記念日です。今年で、開校22年目となります。平成13年4月1日、児童数の増加に伴い、一小・五小・六小から分離し、朝霞市10番目の学校として、児童数682名、20学級、教職員30名で開校しました。沿革史によると、平成13年10月10日に校歌と校章が制定され、この日を開校記念日としたそうです。また、記念式典がその年の12月15日に開催されました。

校章はデザイナーの小野寺ゆみ氏に制作を依頼し、上部に黒目川べりに咲く私たちにも親しみのある桜の花と朝霞市の木「ケヤキ」の葉を配し、中央部には、飛翔・羽ばたきを意味する羽根を、下部には、協調や和や無限の広がりという意味する10個の円や曲線を配したとのことです。（タイトル左 校章参照）全体として、互いに協調し合って未来に向かって羽ばたこうということです。校章のデザインから類推すると、本校の周りのほとんどが桜の木に囲まれている理由もわかります。写真は、開校当時の記念写真ですが、桜の木も当然ながら現在のように生い茂って



開校時の航空写真



榎氏自筆の校歌

いません。また、校歌ですが、作詞については青森県生まれの詩人、榎皓志（まきこうし）氏（1924～2007）、作曲が多くの学校の校歌を手がけた坂下滉（さかしたこう）氏にお願いしたとあります。榎氏の歌詞原稿の下段には「覚え書き」があり、そこには「寄せていただいた生徒さん達の御要望はつとめて織りこんだつもりです。」と書かれています。つまり、校歌作成にあたっては、子供たちの要望を聞く機会があったことがわかります。詞の解釈についても「一番に、21世紀初頭に生誕した本校の歴史と朝霞の地名の香り、並びに『十』の数詞を歌いこみました。十（とお）は十全、すべて、みんなの意を含みます。また、『友よ ともに』など、頭韻『と』のひびきを通わせてみました。」とあります。

校章や校歌に込められた開校に関わった多くの方々の願いや思いを胸に、これからも子供たちを真ん中に、学校・保護者・地域の皆様と新たな伝統を築き上げていくことが、今の私たちの使命だと思っています。